ひと・あれ・これ

未熟な縁の下の力持ち

日本ビー・ケミカル株式会社
正木　祥子
（平成19年3月教育学部卒）

私の仕事

現在私は、プラスチックコーティング専門の塗料メーカーで働いています。製造される製品のほとんどが、自動車用部品の塗料として利用されています。

私はそこで、塗料の分析を日々行っています。具体的には、お客様の所で塗装をして不具合が発生した場合、さまざまな装置を駆使して原因を突き止めるというものです。

分析の仕事で扱う不具合のほとんどは凹凸なのですが、それらはほぼ約数10マイクロメートルという大きさのものばかりです。実際に仕事に取りかかる際には、非常に細かな作業が必要とされるため、働き始めの頃は、不具合の箇所を見失ったり誤って傷を付けたりすることのないよう、集中力を保つのが大変でした。

〝慣れる〟ための一年目

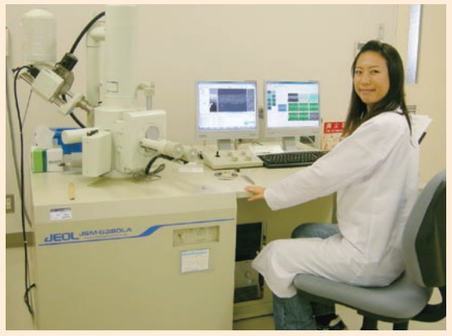
社会人になってから、一年が過ぎるのに実は12ヶ月もかかっていないんじゃないかと思うくらい、時間が経つのが早く感じました。

思えば、昨年の一年間は慣れるための期間であったのだと思います。見知らぬ土地での生活、仕事、新たな人間関係等、全てにおいて私の環境が変わりました。慣れ親しんだ関西を離れての生活は、初めは辛い部分もありましたが、喉元過ぎれば…ですね。今ではずいぶんと慣れてきました。

仕事においても、分析装置の取り扱いは一通りこなせるようにはなってきましたが、複雑なサンプルになると途端に手こずってしまいます。そうなると先輩に助けを求めるのですが、あっという間に分析を終える手さばきは見事で勉強になります。

仕事上、私はお客様に直接お会いするということはありませんが、分析結果はお客様への報告として利用されるので、縁の下の力持ちとして自分の技術を磨いていきたいと考えています。

また、少しでも先輩に近づけるよう、〝進歩〟の二年目にしたいと思います。



分析装置の前にて

想いは必ず伝わる

三郷市立三郷小学校
城本　雅司
（平成18年3月教育学部卒）

瞬く間の一年目

一年前の春、何をするのも新鮮で、毎日子どもたちと出会うのが楽しくて仕方がない日々を送っていました。

昼休みにCDをかけてダンスを踊ったり、給食時間には家でのことや遊びなどについて、たくさん話をしました。遠足や社会見学の移動中には、一緒に歌を歌ったり、たわいもない話で盛り上がったこともありました。放課後、教室で一人作業をしていた時に寂しさが込み上げてきたこともあり、それには自分自身驚きました。

もちろん、毎日が楽しいことばかりではなく、ときには辛い思いをしたこともあります。子どもがどうしても許せないことをしたので、「それはいけないこと」ということを伝えようと怒ったのですが、それがうまく伝わらずに言い争いになったことがありました。また、私の指示不足で、子どもたちがどう行動したらいいのかわからず困らせてしまったり、授業が準備不足のため反応が悪く、わからない顔をされたこともありました。そんな時は、子どもたちに申し訳ない気持ちでいっぱいになり、途中で投げ出したくなる瞬間もありました。それでも諦めることなく続けてこられたのは、子どもたちの行動が変わり、「伝えたいことが伝わった」という実感を持てたからでした。

秘めた力

二年目になり、少しずつわかってきたことは、子どもたちの持つ力の大きさです。子どもたちは、私が思っていた以上に責任感があり、行動力もあります。任せれば一所懸命頑張ってくれますし、褒めればとても喜んで、さらに頑張ってくれるようになります。

その声を聞くために

まだまだ思い通りにいかない時もあり、失敗をする時もあります。ですが、去年の一年間で学んだことをもとに努力を重ね、「今日の授業は楽しかった」「またやって」といった声があふれるようなクラスを目指し、これからも励んでいきたいと思っています。

課外活動共用施設完成

広がるサークル活動

学校教育教員養成課程言語・社会コース4回生
文化会会長　旧田克也

課外活動共用施設完成おめでとうございます。施設の完成は、我々文化会にとっても非常にうれしいニュースです。これからのサークル活動のさらなる活性化のため、ぜひこの施設を積極的に活用していこうと思っています。

今回の共用施設完成までには、長い道のりがありました。この奈良教育大学は、少人数制をウリとしている小規模な大学ですが、サークル活動はそれに比べて活発であると言えます。しかし、大学の敷地の狭さがそのサークル活動を制限することがしばしばあります。また学内の施設も年季の入ったものが多く、サークルボックスをはじめとして、使用に耐えないものがちらほら存在します。そのため、サークルによっては十分な活動環境を確保できず、部室もないため、やむなく活動の際に教室を借りるサークルもあります。また大きなサークルの中には、活動場所が小さいため、それぞれの部員に十分な活動時間を持たせることができないと嘆くサークルもあります。サークルが活動する場所が慢性的に不足していたのです。

こういった問題の改善は、私が大学に入学してくるまでにもずっと話し合われていたようですが、どのような形での改善策を取るかで学生側と大学側の意見がかみ合わず、両者が同意に至るまでにかなりの時間がかかったと聞きます。課外活動共用施設の完成は、このような長い時間をかけた両者の歩み寄りの成果であると言えます。

施設の活用方法としてはまだ手探りの状態で、現在十分に活用できているとは言えません。これから時間をかけて、どうすればより良い使い方ができるかを考えていきたいと思います。

課外活動

ウインドアンサンブル

サークル活動を通じて学んだこと

総合教育課程文化財・書道芸術コース3回生
天池規夫

私たち奈良教育大学ウインドアンサンブルは、総部員数約50人で活動を行っています。「ウインドアンサンブル」と言ってもあまり耳なじみがないかも知れませんが、要は吹奏楽部のことです。

このサークルには顧問の先生はいますが、学生主体で運営しています。演奏会を行う際には、ホールとの打ち合わせやレンタカー・トラックの手配、また、合宿を行うに当たって旅行会社の方・旅館の方との打ち合わせ等、高校の頃であれば先生方がしてくださっていたことも、すべて学生が行います。多種多様な仕事があるのですが、係を複数設けたりしながら組織立て、部員みんなで一丸となって運営を行っています。

ただ、やはりこれだけの人数で活動しているので、当然意見のすれ違いや衝突も時にはあります。しかし、それは「良いサークルを作ろう、楽しもう」という意志があるからこそであり、その結果目標に到達できた時の喜びはとても大きなものとなります。ゆるぎない意志を持っていれば、たとえつらくても、また立ち上がることができると信じています。そして、その意志は決して一人で持ち続けることができるものではなく、仲間がいるからこそだと思います。周りにいる人たちを信用することが、自分を前に進めるための第一歩であると、このサークル活動を通じて強く感じました。

受験生の方の中には、「受験は一人でするものだ」と思っておられる方も多いと思いますが、周りの人たちのことや、それに支えられている自分の意志について、一度立ち止まって少し考えてみるのもいいのではないでしょうか。

夏に行われた合宿